リプロダクションセンター
石川 智則 センター長

“今すぐ”または“将来”の妊娠・出産に向けた治療を、大学病院の総合力を駆使して提供します。合併症をお持ちの患者さんの治療も安心してお任せください。経験豊富な専門医とスタッフが確かな情報のもとに、それぞれの患者さんごとに最適な治療を実践します。生殖医療だけではなく、生殖機能の温存を意識した子宮内膜症や子宮筋腫に対する治療やがん・生殖医療、生殖医療に関するカウンセリングにも対応しています。タイムラプスシステムやピエゾICSIシステムなど最新の診療器材を装備し、患者さんの病態を深く考慮した治療を行います。
患者さんのご希望が叶うように、センターのスタッフ一同、丁寧な診療を心がけています。お気軽にご相談ください。

取り扱う主な疾患

生殖医療全般	女性および男性の不妊症の検査・治療、人工授精、体外受精、顕微授精、胚移植
生殖機能の温存	精子凍結・保存、卵子凍結・保存、胚凍結・保存、卵巣組織凍結
生殖外科手術	子宮筋腫や卵巣腫瘍、子宮内膜症などに対する低侵襲手術
不育症	
着床前遺伝学的検査（PGT-A/SR/M）と遺伝カウンセリング	
看護カウンセリング	
心理カウンセリング	

リプロダクションセンタースタッフ

アクセスマップ

受診方法

診療について
TEL： 03-5803-4790　リプロダクションセンター
予約について
TEL： 03-5803-4655　医療連携支援センター地域連携室

病院やクリニックからのお問い合わせ先

地域連携室
TEL： 03-5803-4655　受付時間平日 11：00 ～ 16：00
病院代表 TEL： 03-3813-6111　24時間対応

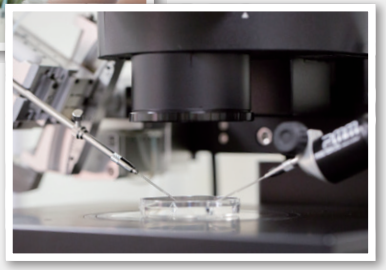
Institute of SCIENCE TOKYO HOSPITAL | 東京科学大学病院

リプロダクションセンター（病院16階）
〒113-8519　東京都文京区湯島1-5-45

全ての「妊娠・出産の希望」に
生殖医療のプロフェッショナルがサポート

リプロダクションセンター ご案内

東京科学大学病院 リプロダクションセンターは、“今すぐ”または“将来”の妊娠・出産を希望する患者さんに、専門的かつ包括的な生殖医療を提供します。周産・女性診療科の生殖医療チームを中心に泌尿器科・小児科・遺伝子診療科・心身医療科の5つの診療科の専門医や経験豊富なスタッフが、“妊娠成立”に加えて“より安全な分娩”や“出産後の健やかな生活”を治療の目標と考えて、確かな情報のもとに患者さん一人一人に最適な生殖医療を提供します。

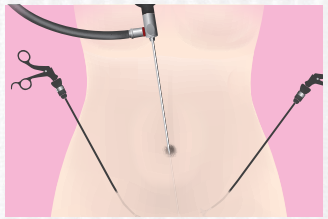


Institute of SCIENCE TOKYO

低侵襲な生殖外科手術

お腹の傷だけではなく、子宮・卵巣にも優しい手術を心がけています！

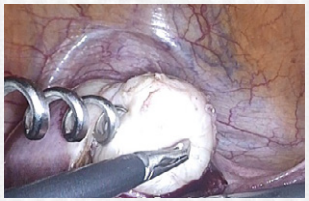
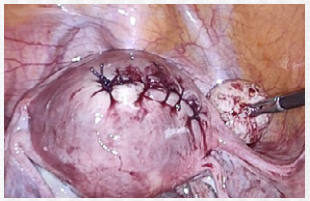
リプロダクションセンターは、不妊治療と腹腔鏡・子宮鏡手術の両方を生殖医療専門医および内視鏡技術認定医が一貫して行うことができる数少ない病院です。
不妊治療と手術とのタイムラグを最小限に抑え、シームレスな治療を提供します。



腹腔鏡手術

お腹の３～４か所に５～12mmの小さな穴をあけて行います。腹腔鏡手術はお腹を大きく切る手術と比べて傷が目立たない、痛みが少ない、術後の癒着が少ない、入院期間が短いなどのメリットがあります。全身麻酔で行い、入院期間は通常６日間です。

対象疾患	子宮筋腫・卵巣嚢腫・子宮内膜症・多嚢胞性卵巣症候群・帝王切開瘢痕症候群など

子宮鏡手術

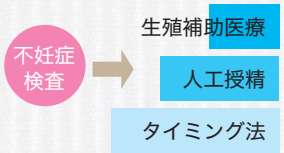
子宮の内側にできた着床の妨げとなる疾患が対象となります。腟から手術を行うため、お腹に傷は残りません。全身麻酔で行い、入院期間は通常３日間です。

対象疾患	子宮筋腫・子宮内膜ポリープ・子宮奇形・子宮内腔癒着など

不妊症検査・治療

不妊症スクリーニング検査から生殖補助医療まで対応しています

妊娠を希望して受診された方には、不妊症の原因を検索しながら、妊娠のための治療も開始します。治療は一般的にタイミング法ー人工授精ー生殖補助医療（体外受精）の３段階でステップアップし、必要に応じて内服薬や注射を組み合わせます。



不妊症検査で異常を認めた場合には、不妊原因に合わせた治療を行います。また年齢が高い場合や卵の数が少ない場合には、体外受精をおすすめする場合もあります。

一般的な検査・治療介スケジュール

月経周期に合わせて必要な検査を行います。

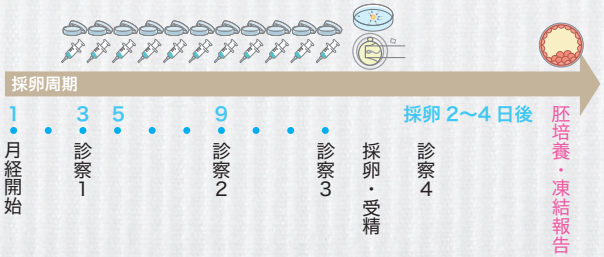
当院で実施可能な不妊症検査
超音波検査、（負荷テストを含む）ホルモン検査、精液検査、甲状腺機能検査、クラミジア感染症検査、フーナーテスト、子宮卵管造影検査、子宮鏡検査、不育症検査

タイミング法や人工授精では１周期に２～３回程度（①月経２～５日目、②排卵前、③人工授精日（あるいは排卵後））受診して超音波検査を行い、適切な性交のタイミングや人工授精日を検討します。

不妊症検査スケジュール

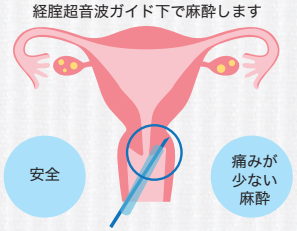
生殖補助医療（体外受精・顕微授精・胚移植）

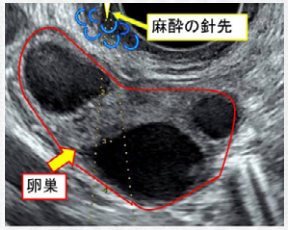
それぞれのカップルの状況に合わせて最適な治療法を提案します。基本的には一度の採卵で複数の卵子を獲得できるよう、内服薬や注射で卵巣を刺激します。
当院では通院回数がなるべく少なくなるように、自己注射も積極的に採用しています。卵巣刺激開始から採卵までの通院回数は採卵のほかに２～３回程度です。



患者さんにやさしい麻酔（局所麻酔・静脈麻酔）

当院では局所麻酔時に超音波ガイド下で麻酔を行います。超音波ガイド下局所麻酔は、超音波を併用しない局所麻酔に比較して適切な場所に麻酔を行うことができるため、安全で痛みが少ない麻酔方法といえます。静脈麻酔も症例に応じて行っています。





がん・生殖医療、生殖機能の温存

がんが「治る病気」になり、がんと診断された若い患者さんの生活の向上・維持を考える中で、生殖機能温存治療に目が向けられるようになってきました。
リプロダクションセンターは当院のがん先端治療部のがん生殖医療ユニットを運営し、院内・院外によらず生殖機能性温存についての相談を行っています。また、生殖機能温存治療の提供のみならず、がん治療後の卵巣機能不全や女性のヘルスケアの諸問題にも当科の女性医学部門と連携して対応します。

女性の生殖機能温存治療の比較

	胚（受精卵）	卵子（未受精卵）	卵巣組織凍結
パートナー	必要	不要	不要
治療期間	２～４週間	２～４週間	～１週間
特徴	成績が安定	パートナーがいなくても凍結可能	初経前でも治療が可能 多くの卵子を保管することが可能 がん細胞残存リスクあり

当院で可能な生殖機能温存治療の詳細

生殖機能温存治療法	対象年齢	代表的な疾患
精子凍結	射精可能年齢～60 歳	造血器悪性腫瘍（白血病など）、精巣腫瘍
胚（受精卵）凍結	生殖可能年齢	乳がん、造血器悪性腫瘍（白血病など）、慢性活動性ＥＢウイルス感染症
卵子（未受精卵）凍結	43 歳未満	
卵巣組織凍結	35 歳未満	横紋筋肉腫、Ewing 肉腫、造血器悪性腫瘍

＊当院は東京都若年がん患者等生殖機能温存治療費助成事業指定医療機関です。